

2月の企画・中央線沿線：倉岳山(990m)～高畑山(982m)

齊藤 整紀

●2020年2月8日(土) 快晴

●メンバー 齊藤整 (CL)、横堀、嶋田、白井

●コースタイム

梁川駅 9:00→立野峠 10:25→倉岳山 11:00～30→
穴路峠 11:50→高畑山 12:25～40→石仏 13:40→
14:50 鳥沢駅

2月の会企画山行にしては寂しい4名のみだが、会きっての健脚に恵まれ、久々の会友との本格的なハイキングを楽しむことができた。

この時期らしいキュンと冷えた空気の快晴。車窓からは富士山を始め、山並みがくっきりして美しい。このところの寒空のせいかな登山客は少なく、高尾駅発甲府行 8時2分発などゆっくり座れる。他の参加者3名は、梁川駅で、はや出発待ちで、9時前にGO!

駅前から倉岳山は見えており、梁川大橋から詰めていく。20分余の舗道歩きのものち登山口に至る。いきなり登り口が崩落! 台風の影響か、そういえば舗道途中にも崩落箇所があった。月尾根沢に沿った静かな登山道に併行する川床は台風の水で磨かれて苔の落ちた白い岩石が目立つ。また崩落による迂回路や径を塞ぐ倒木もある。

小休止2度を含め1時間半で立野峠に着き、日当たりと展望が得られる様になると俄然ポジティブに! 富士山の他、北岳なども真っ白である。但し、残念なことに、葉を落とした木の枝が邪魔をして、写真にはなりにくい。

目の前に倉岳山が現れ、しばらくの急登をこなすと倉岳山の山頂に至り、絵に描いたような富士山が姿を現す。しかし、この位置からは脇役の南アルプス諸山を後ろに隠してしまうため、一人舞台である。

山頂は、そこそこ人がいて、思い思いに富嶽十二景を味わいながら休息を楽しんでいる。

次のピーク高畑山へは、まず急な下りから穴

路峠を目指す。この峠からは鳥沢駅へのエスケープルートがある。さらに先へ進み、天神山などのいくつかの小ピークをやり過ぎて、ようやく高畑山のピークに至る。先ほどよりも幾分富士の周りに雲が増えたが、やはり見事な眺めである。高畑山と倉岳山とで富嶽十二景の九番である。頂上は何組かのグループで賑わっている。

ここからの下山は、石仏まで1時間程、急な斜面のトラバースやジグザグの径が続く。遮るもののない見晴らしの良い径ながら、急斜面に径が切られているため、気は抜けない。

高度の下がった石仏は穴路峠からのエスケープルートとの合流点である。ここからの下りは川底を歩くコースが続く。台風で挟られ、歪んだ川床の不安定な石や倒木が邪魔して、歩き辛い。30分程でゲートを潜り、村の舗道に出る。しかし、この先、鳥沢駅までの長い舗道歩きは悩ましい。ようやく15時前に鳥沢駅着でハイクは終了。15時50分台の高尾行の列車に乗り込む。

ほぼ5時間のコースタイムで歩いて、1時間休憩を取った計算でトータル6時間の行程。

反省会は午後4時では早すぎる。国立の弟に連絡したところ、国立にあるというので待ち合わせた。しかし、目指す居酒屋は、どこも5時からで、サイゼリアで我慢、お疲れ様! (了)

